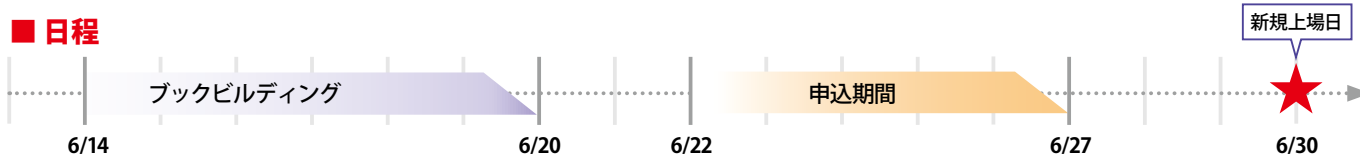


IPO銘柄 ツナグ・ソリューションズ (6551・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6551	100 株	公募: 27.00 万株 売出: 18.00 万株 (OA6.75 万株)	1,970 円 ~ 2,130 円 (37.8 倍)	野村証券



アウトソーシングと業務代行が両輪の人材サービス会社

■ 事業内容

アウトソーシングと業務代行が両輪の人材サービス会社。求人メディアも手掛ける。アウトソーシング領域では、全国に多店舗展開する小売業、飲食業など大手企業におけるアルバイト、パートの採用活動支援サービスを手掛ける。業務代行領域では、顧客企業の年次総会や優秀社員表彰式などのイベント受託や求人媒体に掲載する原稿制作などを行う。メディアサービス事業では、短期、単発アルバイト専門サイト「ショットワークス」、勤務シフトにマッチしたアルバイトを探せる「シフトワークス」などを運営。このほかりテールサービス事業としてコンビニエンスストアを運営している。17年9月期第2四半期の売上高構成比は人材サービス事業が68.7%、メディアサービス事業が19.4%、リテールサービス事業が11.8%。

■ 特徴

同社は年間18万本の求人広告出稿を代行し、65万名の応募者に対応。求人広告、応募者対応の情報のすべてをデータベース化し、ビッグデータの社内システム「TSUNAGram」に集約。地域やターゲット、予算の掛け合わせで効果的な求人メディアを抽出することができる。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年9月期の連結経常利益は前期比20.1%増の2億6,900万円を予想する。企業の採用ニーズの高まりを背景に人材サービス事業の需要は旺盛で、メディアサービス事業も堅調に推移する。事業環境は良好で、中期的にも堅実な業績成長が期待できそうだ。

■ 定性分析

人手不足が社会的な問題となっている中で、人材サービスを手掛けていることからテーマ性の強い案件として注目されそう。IPOマーケットでの人気はそれほど高くないが、既存市場では人材関連株の好業績、株価上昇が目立っていることが追い風となりそう。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は11億円程度となっている。荷もたれ感が意識される規模ではなく、ベンチャーキャピタル保有株もない。地合いも良好ではあるが、6月30日は3社が同日上場するスケジュールにあり、初値買い資金の分散が懸念される。(小泉健太)

■ 類似企業

ツナグ・ソリューションズ (6551・マザーズ)	予想PER37.8倍 (仮条件上限)
アウトソーシング (2427・東証1部)	予想PER19.1倍
リブセンス (6054・東証1部)	予想PER —

■ 引受証券

野村証券、大和証券、SMBC日興証券、マネックス証券、SBI証券、いちよし証券、エース証券、岩井コスモ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年9月期(実績)	3,127	—	63	—	14	—	7.6	—
16年9月期(実績)	5,087	62.7	224	3.5倍	107	7.5倍	51.9	—
17年9月期(会社予想)	6,388	25.6	269	20.1	120	12.3	56.4	—

※ 17年2月に株式分割(1株→30株)を実施。15年9月期および16年9月期のEPSは遡及修正15年9月期より連結財務諸表を作成しているため15年9月期の前期比はなし

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年9月期	69,000	1,731	315	180	152.6	18.3	5.7
16年9月期	69,000	2,077	423	180	204.6	20.4	29.1

※ 15年9月期および16年9月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	米田 光宏	801,030	36.33
2	ツナグ・ソリューションズ従業員持株会	395,400	17.93
3	米田事務所	285,510	12.95
4	渡邊 英助	132,000	5.99
5	リクルートホールディングス	62,100	2.82
6	御子柴 淳也	58,230	2.64
6	矢野 孝治	58,230	2.64
8	平賀 充記	54,000	2.45
8	久米 喜代司	54,000	2.45
10	上林 時久	36,000	1.63

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	米田 光宏
取締役(経営戦略統括本部長)	御子柴 淳也
取締役(コミュニケーション戦略統括本部長)	矢野 孝治
取締役(サービス統括本部長)	平賀 充記
取締役(ソリューション統括本部長)	久米 喜代司
取締役	渡邊 英助
取締役	上林 時久
取締役(コーポレート統括本部長)	片岡 伸一郎
取締役	六川 浩明
常勤監査役	宮原 正雄
監査役	中川 博史
監査役	小山 貴子
監査役	北村 恵美

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。